

現況推計について

1. 現況推計の概要

(1) 温室効果ガス排出量の現況推計年度、対象ガス、対象部門

■現況推計年度

2008（平成 20）年度

（基準年度：1990（平成 2）年度）

■対象ガス

4 種類

①二酸化炭素（CO₂）

②メタン（CH₄）

③一酸化二窒素（N₂O）

④ハイドロフルオロカーボン類（HFCs）

■対象部門

5 部門

①産業部門 ⇒製造業、建設業、鉱業、農林業など

②民生家庭部門 ⇒家庭

③民生業務部門 ⇒卸・小売業、飲食店、サービス業、病院、公務など

④運輸部門 ⇒乗用車、バス、貨物、鉄道など

⑤廃棄物部門 ⇒廃棄物の焼却、下水の処理、し尿の処理

(2) 温室効果ガス排出量の主な算定方法

■エネルギー起源二酸化炭素（CO₂）排出量の算定

エネルギー消費量×排出係数

■非エネルギー起源二酸化炭素（CO₂）排出量の算定

廃棄物焼却量（プラスチックなど）×排出係数

■メタン（CH₄）及び一酸化二窒素（N₂O）排出量の算定

廃棄物焼却量×排出係数

水稲作付面積×排出係数

燃料消費量×排出係数

下水処理量×排出係数

し尿処理量×排出係数

■ハイドロフルオロカーボン類（HFCs）排出量の算定

自動車登録台数×排出係数

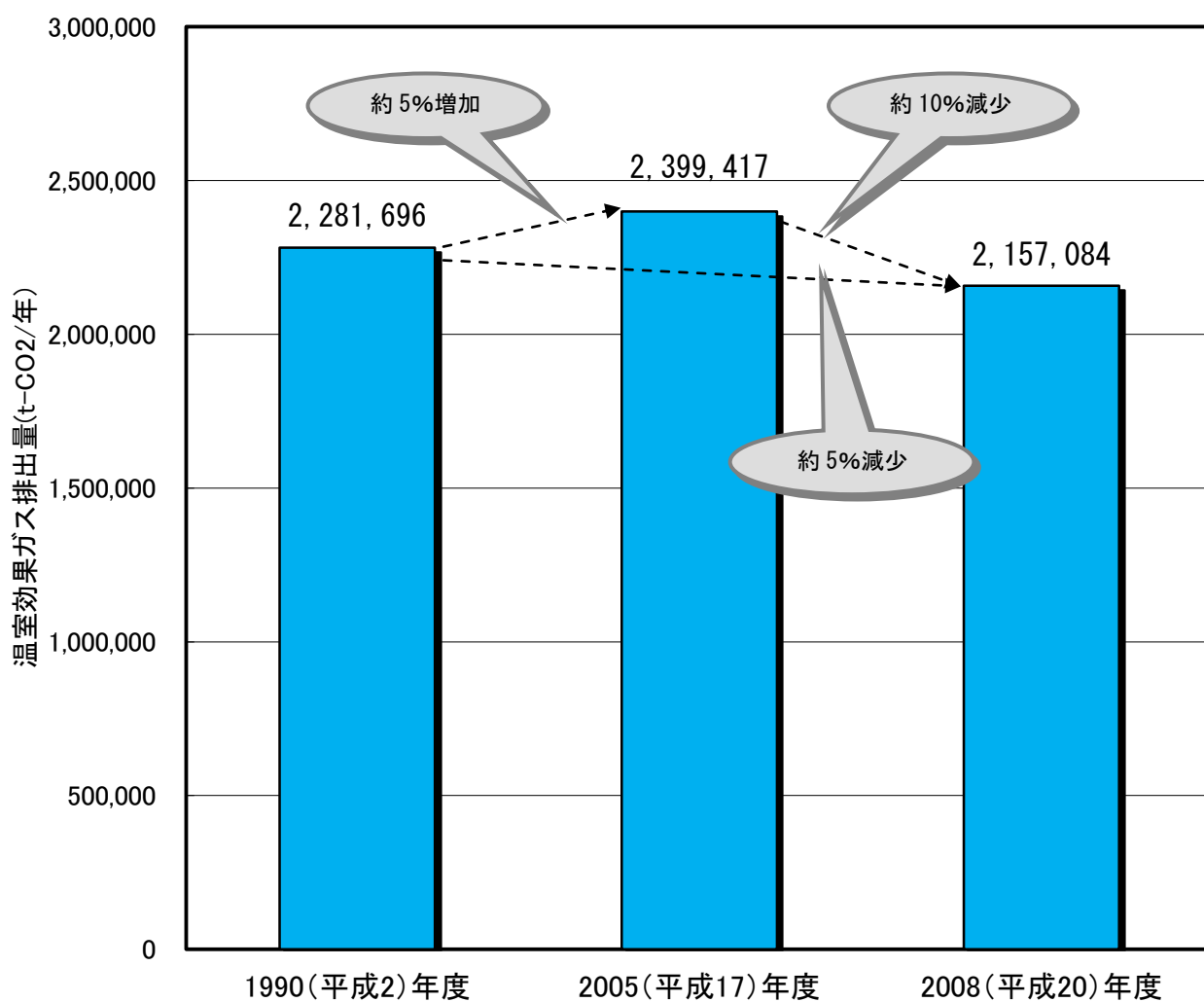
2. 現況推計の結果

(1) 温室効果ガス総排出量の動向

2008（平成 20）年度の温室効果ガス総排出量は 2,157 千 t-CO₂ であり、1990（平成 2）年度の温室効果ガス総排出量 2,282 千 t-CO₂ と比較して約 5%減少しています。

2005（平成 17）年度の温室効果ガス総排出量は 2,399 千 t-CO₂ であり、1990（平成 2）年度から約 5%増加していますが、2008（平成 20）年度の温室効果ガス総排出量は 2005（平成 17）年度から約 10%減少しています。

図 温室効果ガス総排出量の動向



（２）部門別温室効果ガス排出量

2008（平成20）年度の部門別の温室効果ガス排出量は、1990（平成2）年度と比較して、産業部門が約29%減少していますが、民生家庭部門は約28%、民生業務部門は約8%、運輸部門は約13%、廃棄物部門は約7%それぞれ増加しています。また、2005（平成17）年度との比較でみると、民生家庭部門は約3%、民生業務部門は約21%、運輸部門は約5%、廃棄物部門は約6%それぞれ減少する傾向にあります。

図 部門別温室効果ガス排出量

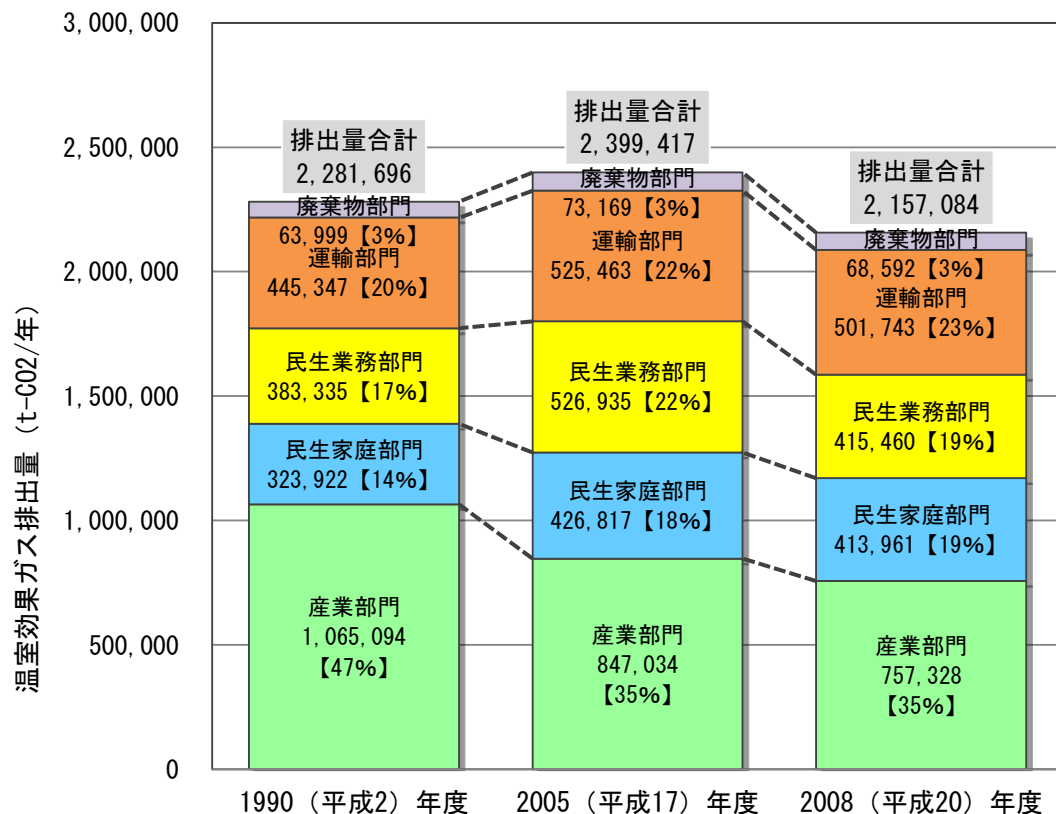
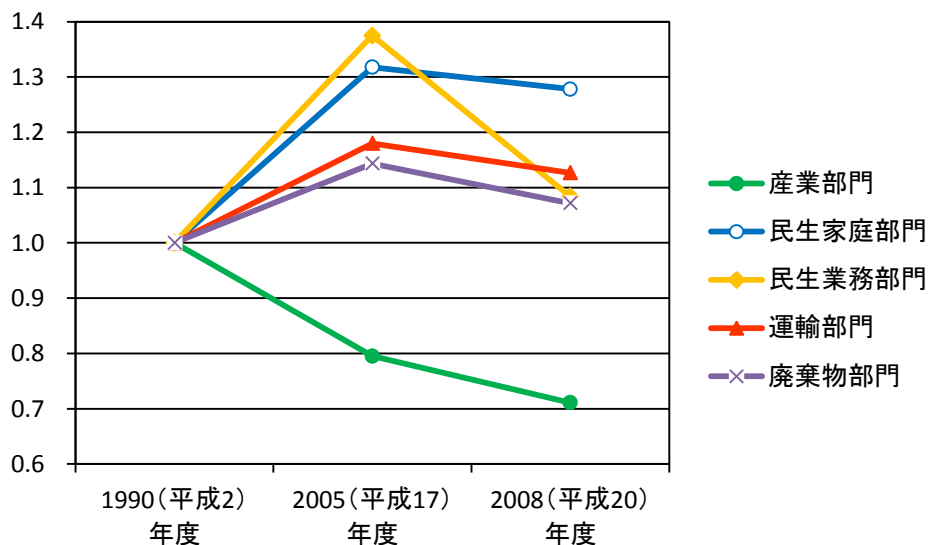


図 1990 年度からの部門別温室効果ガス排出量の動向

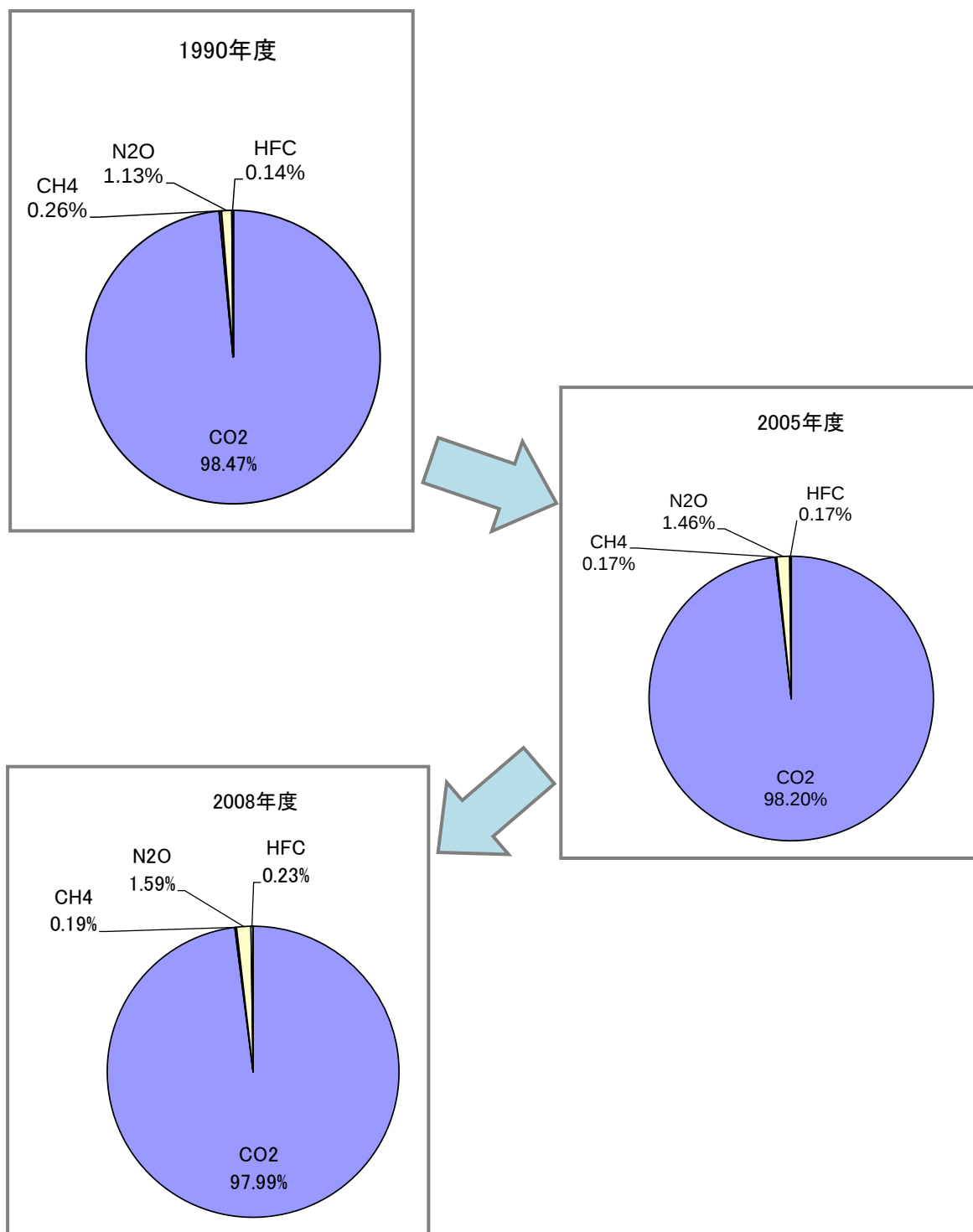


※1990（平成2）年度の部門別排出量の値を1としています。

(3) ガス種別排出量割合の動向

1990（平成 2）年度、2005（平成 17）年度、2008（平成 20）年度ともに、CO₂ 排出量の割合が約 98%と大半を占めています。

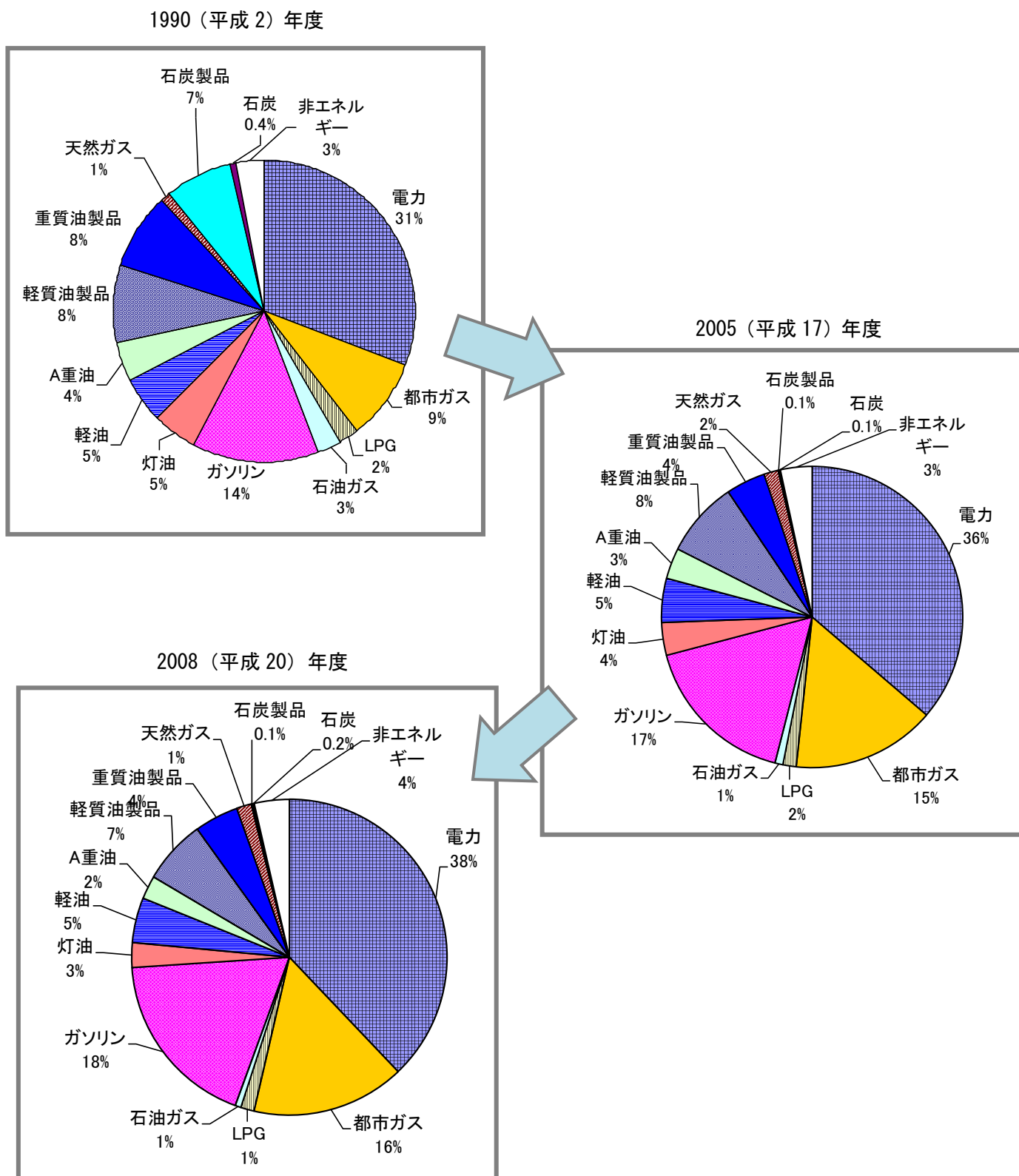
図 ガス種別排出量割合の動向



(4) 発生源別温室効果ガスの排出量割合の動向

1990（平成2）年度から電力、都市ガス、ガソリンの排出量割合が2008（平成20）年度は大きく増加しています。

図 発生源別温室効果ガスの排出量割合の動向



(5) 人口1人あたりの温室効果ガスの排出動向

温室効果ガスの総排出量を人口1人あたりとしてみた場合、1990（平成2）年度から2008（平成20）年度までに約9%減少しています。

図 人口1人あたりの温室効果ガスの排出動向

